

皆さま、森てるおです。

都議会議員選挙の結果は、残念ながらまたしても次点での敗北に終わりました。得票数から言えば惜敗ですが、負けは負けです。市長選挙に続いての二連敗で、悔しい思いを抱いています。しかし、都議会議員選挙の立候補にあたって森てるおは「都議選をもって森てるおを候補者とした最後の選挙とする」とお約束しました。お約束を果たしていきます。

これからは森てるおへの市民の皆さんの温かいご支持を、次代の人材に注いでいただけるように努力していきます。次代を担ってくださる人物を発掘できました折には、皆さまにご紹介させていただきますので、森てるおへと同様のご支持をこの人材に注いでくださるようお願いいたします。

市長選挙、都議会議員選挙と走り続けてきた半年でした。それらへの対応を迫られる中、ご説明が不十分なまま全力で突っ走ってきました。ようやく一段落しましたのでこの間の総括をするとともに、ご報告を申し上げます。

森てるおは行政に関わる情報が行政自身からも、議会からも十分に出されない状況を解消するために、市民運動の仲間の後押しされて、「情報公開を徹底させる」ことを目的に市議会議員に立候補、当選しました。前期の選挙で市民派を名乗って 5 人が立候補し全滅していましたので、当期は誰も立候補せず、それも功を奏したのでしょうか。

森てるおは初めて立候補した時「ひとりでできることは何でもやる」「他の人と一緒になければできないことは、努力するけど約束できない」と宣言し、「ひとりでできる事」として「情報公開の徹底」を約束しました。その他の課題については市民運動に関わっている立場で、市民にとって納得できるものかどうかという視点から取り組み、最大限の努力をしてきました。以来 14 年、約束はおおむね果たしてきたものと思っています。

市民運動出身ということで、システム上、一議員の能力を超える過大な期待をされることも多かったのですが、最大限の努力は行いました。運動に携わっている人の中には、森てるおが議会で追及することによって問題が解消すると短絡的にお考えの方々もいて、その点ではご不満の残ることも多かったと推察します。でも、議会で簡単に解決するようだったら市民運動は不要です。また、何でもお任せして解決してくれる「スーパーお助けマン」がいれば市民の自治意識は育ちません。

さて、今回の市長選、都議選への連続した立候補について森てるおが考えていたことをご報告します。

森てるおは市議会議員を最長 3 期までと考えていました。しかし、2007 年 3 期目初年度の夏、市長給料と議員報酬の引き上げが提案されて可決され、翌 2008 年 4 月から実施されることになり、この問題を最大課題と考えて取り組みました。翌年の市長選挙では市民の森てるお自身への立候補要請には応じませんでした。報酬問題が争点になった選挙になり、現職が自身の給料の 20%削減を打ち出して当選しました。

市議会議員選挙の年を迎えても市民の怒りは収まらず、その怒りを一身に担っていた森

てるおには立候補しない選択はあり得ませんでした。4期目の選挙は「報酬引き上げに関わった現職を落とそう！」と呼びかけて、結局、引き上げを提案した市長与党の現職5人が落選し、市民の怒りが「市民意思に反する行為をした議員は落ちる」ことを示せました。これは4期目への立候補の効果だったと考えています。

4期目が始まった直後に東北大震災が起こり、原子力発電所の事故が発生しました。放射能対策が緊急課題になりました。

一方で市政は少数与党の不安定政権になりました。この状況は、実は市民自治実現に向けた大きなきっかけにできるものでした。その意志がそもそもない市長は野党（自民・公明）の傀儡政権となって生き延びる道を選択したように見えました。野党の政策を市長とその与党が推進するといういびつな傀儡政権となり、市政が一層見えづらくなりました。

森てるおの役割は情報公開の徹底です。しかし舞台裏での野党主導の大政翼賛会の情報は取りづらく、議会内での公開の質疑に頼らざるを得ませんでした。野党主導の傀儡政権であることは放射能汚染対策の質疑に象徴的に表れています。

放射能対策は他市の後追い、報酬問題は進まず、次代のまちづくり計画(西東京市総合計画)の作成作業が開始されるという状況の中、議員の残り任期ではとても対処できないと考えていました。そのときに市長選挙立候補への要請がありました。

手術後の体力回復が遅々としている身としては即答しがたく、「政策の柱ともなる市民版まちづくり計画を作り、市長候補者が利用できるようにしよう」「森てるおは市長としての職務に耐えられる自信が回復したら自身が立候補する」と提案しました。結局、体力の回復、市民版まちづくり計画の提案を待っての立候補表明となり、時間的にかなり窮屈な市長選挙になりました。その上権力争奪戦となる大きな選挙を経験したことがない市民グループには、森てるお自身も含めて重たい選挙になりました。

市議選に比べてできる事はたくさんある、しかし資金が足りない、人手が足りない、当然ながら「できる事」も全部はできないから選択しなければならない。

選挙は当選しなければなりません。与えられた諸条件の中で最大限の努力をしても勝つ見込みが立たない選挙には挑むべきではありません。市長選は勝てる見込みがありました。しかし結果は敗北でした。

市長選の得票数 18,565 票は、私たちの考えに一定の支持のあることが証明されました。市長選挙に挑んだこと自体は間違いではなかったのです。市長選挙で得た票をどう考えるのか、どこに、どのようにつないでいくのかが森てるおの課題でした。

このことについては市長選挙の総括会議で実によくのご意見をいただきました。総括は次につながる教訓を得るためのもの、と森てるおは理解しています。良かった点は継承し、よくなかった点は克服すべきものです。どこに向けて、なにに向けて、情勢は何を示しているのか、こんなことを考えながら皆さんからご提案のあった、この後に続く選挙、都議選(6月)、市議選(来年暮)、市長選(4年後)、そしてそれらを選択しないでの市民運動への復帰等を、当然のことですが「森てるお」が市民自治の実現に最も役立つのはどんな場面か

との観点から考えました。

その結果、都議選を選択しました。時間の制約から市長と都議の共通点と相違点を十分に説明できず、市長選挙にご尽力くださった方々の幾分かには、都議選にご参加いただけませんでした。方針を巡っての考え方の違いだと捉えています。

選挙は集まった方々で進めるしかありません。森てるおが選択肢を示した以上、選挙運動に参加いただけなかった方々も、市民自治の実現という共通項の下、必ずや「森てるお」に投票してくださるものと信じていました。

森てるおは変心したとか、ポストに恋々としているとかの声が、残念ながら市長選挙に協力くださっていた方々の中から聞こえてきました。しかし、単なる感じ方の問題であり、根拠が示されているわけでもありませんでしたので、反論はしませんでした。最終的に立候補した6人の中で「森てるお」が市民自治の実現に一番有効なことは明らかで、この場面では森てるおの資質云々の話は本筋ではないからです。共通目的のもとでの大同団結は当然のことで、議論の余地はありません。

ただし、森てるおが共通目的の達成を妨げる阻害要因だというのであれば話は別になってきます。排除するのは当然です。森てるおであっても同じようにします。

また、一部で「落選運動」まがいの動きがありましたが、こちらの方については森てるおは理解できません。都議会議員に立候補している「森てるお」は市民自治実現の阻害要因だと考えての事なのでしょうか。真の敵「旧体制」を利する行為のように映ります。都議会議員選挙に出るか出ないかは単に共通目的の下での方針の違いにすぎず、方針の違いを敵対する者との矛盾のように考えてやめさせようとするのは、偏狭なセクショナリズムです。ぜひとも自戒していただきたいと考えています。

ともあれ、市長選挙、都議会議員選挙ともに敗北しました。悔しい思いはいっぱいですが、14年間背負い続けた肩の荷を降ろしてほっとしています。

ひと息ついてから都議選と、それを決意させた市長選挙の、もう少し詳しい総括をします。

今後「森てるお」をどうするのか、市民の運動の中でどう生かしていくのか、来年の市議会議員選挙にどう使っていくのか、皆さまのご意見をいただいてからしっかりした総括をします。

そしてできれば「森てるお」に代わる旗頭を立てられるようにしたいと考えています。

最後になりましたが、家族には感謝しています。「反対」の中で、分担していた家事の肩代わりもしていただきました。反対するのを押して立候補したのですから、いずれ7月に入ってから埋め合わせをしなければなりません。家族が反対する理屈というのはある意味理不尽で、「反対だから反対だ！」というようなものです。そんな中での立候補は大変です。あとをつないで旗頭を立ててくださる方には、ご家族の反対で立ち尽くすことないように、サポートをしていきたいと考えています。